

## 「長野県DMA T 隊員数」に係る目標数値（案）

平成 29 年 10 月 17 日

長野県医療推進課

## （案 1）【指標名：長野県 DMA T 隊員数】

これまでの年間登録者の増加数を基に算出

 $23.7 \text{ 人} \times 6 \text{ 年} \doteq 142 \text{ 人}$ （6 年間の新規登録者数） $\Rightarrow 323 \text{ 人}$ （現状値） $+ 142 \text{ 人} = \underline{465 \text{ 人}}$ 

## （案 2）【指標名：長野県 DMA T 数】

各 DMA T 指定病院に 6 年後の目標チーム数を聞いた上で、その数を基に算出

県から各 DMA T 指定病院に 6 年後に確保したい目標チーム数を照会

・チームの基本構成は、

&lt; 医師 1 + 看護師 2 + 業務調整員 1 + いずれかの職種 1 &gt; の 5 人。

## （案 3）【指標名：DMA T 隊員養成数】

これまでの養成実績を基に算出

① 日本 DMA T 研修の過去 5 年間の長野県の年間受講枠の平均は約 5 枠

 $\rightarrow 5 \text{ 枠} \times 5 \text{ 人} = 25 \text{ 人}$ （年間の日本 DMA T 研修受講者数）

② 長野県 DMA T 養成研修の過去 5 年間の受講者数の平均は 32.6 人

③ 1 年間の養成数の合計

 $\rightarrow 25 \text{ 人} + 32.6 \text{ 人} = 57.6 \text{ 人}$  $\Rightarrow 57.6 \text{ 人} \times 6 \text{ 年} \doteq \underline{345 \text{ 人}}$

26年度以降の長野県DMAT隊員数の推移

平成29年10月17日  
長野県医療推進課

	日本DMATを保有				県DMAT養成研修の受講のみ				合計			
	医師	看護師	業務調整員	計	医師	看護師	業務調整員	計	医師	看護師	業務調整員	計
26年度	50	75	47	172	14	38	28	80	64	113	75	252
27年度	52	86	52	190	11	27	23	61	63	113	75	251
28年度	55	90	59	204	22	39	36	97	77	129	95	301
29年度	53	101	64	218	27	42	36	105	80	143	100	323
前年度比増減の平均	1.0	8.7	5.7	15.3	4.3	1.3	2.7	8.3	5.3	10.0	8.3	23.7

	医師	看護師	業務調整員	計	医師	看護師	業務調整員	計	医師	看護師	業務調整員	計
H29.4.1時点の平均年齢	44.7	41.1	38.3	41.2	38.6	35.5	32.6	35.3	42.7	39.4	36.3	39.3

指定病院別長野県DMAT隊員登録者数

平成29年4月1日現在

単位：人

	日本DMATを保有				県DMAT養成研修の受講のみ				合 計			
	医師	看護師	業務 調整員	計	医師	看護師	業務 調整員	計	医師	看護師	業務 調整員	計
佐久総合病院佐久医療センター	7	12	7	26	2	2	3	7	9	14	10	33
信州上田医療センター	2	10	3	15	1	1	2	4	3	11	5	19
諏訪赤十字病院	6	10	6	22	3	7	7	17	9	17	13	39
伊那中央病院	6	9	8	23	3	6	5	14	9	15	13	37
飯田市立病院	4	9	8	21	3	6	4	13	7	15	12	34
県立木曽病院	2	8	3	13	0	0	1	1	2	8	4	14
信州大学医学部附属病院	10	12	9	31	8	9	4	21	18	21	13	52
相澤病院	4	7	4	15	3	5	2	10	7	12	6	25
市立大町総合病院	1	5	3	9	0	3	5	8	1	8	8	17
長野赤十字病院	8	11	7	26	3	3	3	9	11	14	10	35
北信総合病院	3	8	6	17	1	0	0	1	4	8	6	18
合 計	53	101	64	218	27	42	36	105	80	143	100	323

長野県災害拠点病院連絡協議会・DMAT分科会合同会議（H29.10.13開催）  
における委員の主な発言

平成29年10月17日  
長野県医療推進課

- 災害医療に興味のある医師は、だんだん頭打ちになってきており、DMATになるべき人はなってしまう状況。  
一方で、看護師や業務調整員は、「やりたい」という職員も多い。  
DMAT隊員はもう少し増やしても良いのではないか。
  
- 病院としても、DMATを1隊出すとなると、費用面だけでなく、人的な面でも大変なのかなと思う。
  
- 県DMAT養成研修は日本DMATになるための予備校ではない。  
これまでも、県内の災害に対応できる人材を養成すべきだということで、日本DMATになれなくても、県DMATとして必要数を養成をしていく、ということで決まった経過がある。  
だから、県DMAT養成研修のみを受講した隊員があふれていくから県DMAT隊員の養成をしなくてよいというのではなくて、県DMATの必要数を設定してそれに向けて養成していくということが大事ではないか。